

平成 17 年度循環器病研究委託費 17 公-3  
急性期脳梗塞における CT, MRI 検査の標準化に関する研究  
平成 17 年度第一回班会議・全体会議 議事録

日時: 2005 年 5 月 28 日 14:00-17:00

場所: 経団連会館 902 号室 (東京都千代田区大手町 1-9-4)

出席者: 主任研究者: 佐々木真理; 分担研究者: 小川彰、山田恵、工藤與亮、上原敏志、池田清延、佐藤博司; 研究協力者: 五十嵐博中、井田正博、井上敬、酒向正春、笹木工、下瀬川恵久(村田隆紀)、高木亮、高野浩一、戸村則昭、平井俊範、平野照之、古井英介、松井美詠子、百島祐貴、米澤久司、渡辺嘉之; 顧問: 寺山靖夫、中川原讓二

### I. 挨拶

開会にあたり、来賓の国立循環器病センター内科脳血管部門 峰松一夫先生、ならびに JET study, MELT-Japan 主任研究者の岩手医科大学脳神経外科 小川彰先生 よりご挨拶を頂戴した。

### II. 特別講演

循環器病研究委託費 14 公-1 主任研究者の大阪大学大学院医学系研究科核医学講座 畑澤順先生 より「循環器病研究委託費超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的診断・モニタリングシステムの構築に関する研究の総括」と題し特別講演を頂戴した。

### III. 審議事項

#### 1. 本研究班の概要および計画について

主任研究者の佐々木より本研究班の概要および計画について説明があった。急性期脳梗塞患者の予後向上や多施設共同研究の推進のためには、CT, MRI 検査の標準化による画像診断の質向上や施設間格差縮小が必須であり、本研究が重要であることが強調された。標準化作業は data validation, evidence making, guideline development の多方面から進めていくことし、相互に情報・成果を共有すること、日常臨床で即戦力になると共に多施設共同研究の推進に貢献することを目指すことで同意した。

本研究班の班構成(主任研究者 1 名、分担研究者 7 名、顧問 2 名、研究協力者 22 名)、予定研究期間(2 年)について説明があった。また、平成 17 年度は 1)単純 CT, 拡散強調画像における初期虚血病変の診断能向上、画質評価・読影訓練システムの構築、2)CT/MR 灌流画像の解析結果の相互検証、定量性向上、他の脳循環検査との比較、3)実践ガイドラインの策定 について研究を進めていくことが了承された。

#### 2. 分担研究者の研究計画について

各分担研究者より研究計画について説明があった。

##### a) 頭部 CT, MRI の急性期脳虚血病変の診断能向上に関する研究(佐々木)

拡散強調画像の b 値、ADC 値の機種間差異の検証、拡散強調画像の表示条件の標準化

##### b) 頭部 CT, MRI の画質評価、読影訓練システムの確立に関する研究(小川 (代: 井上))

初期虚血病変の範囲判定(1/3 MCA rule, APSECTS)の妥当性検証と読影訓練システムの構築

- c) 急性期脳梗塞における CT, MRI 検査の実践的ガイドライン策定に関する研究 (興相 (代: 佐々木))  
臨床で役立つ多施設研究の参考となるような procedure guideline の策定
- d) CT, MR 灌流画像による解析結果の精度・信頼性の検証に関する研究 (工藤)  
CT, MR 灌流画像の機種間・解析ソフト間差異の検証、標準化ファントムの開発
- e) CT, MR 灌流画像の定量性向上に関する研究 (山田)  
主に MR 灌流画像の“定量性の向上”について検討(但し定量値ではない)
- f) CT, MR 灌流画像と他の脳循環検査との比較に関する研究 (上原)  
Diffusion-perfusion mismatch と SPECT, PET との比較
- g) CT スキャン検査による超急性期脳梗塞に対する治療戦略の決定 (池田)  
単純 CT, CT 灌流画像, CTA-SI などによる複合的 CT 検査の臨床的意義の検討
- h) 脳梗塞における MRI 検査の標準化に関する研究 (佐藤)  
CT, MR 灌流画像の解析手法の最適化に関する基礎的・技術的な検討

### 3. 各種委員会の設立について

佐々木より各種委員会の設立について提案があった。円滑な情報交換を図り共同研究を効率的に進めるため、以下の 6 つの委員会を組織することが了承された。

- 急性期脳梗塞における CT, MRI 検査の実践的ガイドライン策定委員会 (興相委員長)
- 頭部 CT, MRI の画質評価・読影訓練システムの確立に関する委員会 (小川委員長)
- 頭部 CT, MRI の精度・診断能に関する検証委員会(佐々木委員長)
- CT/MR 灌流画像の解析精度・信頼性に関する検証委員会(工藤委員長)
- CT/MR 灌流画像の定量性向上に関する委員会(山田委員長)
- CT/MR 灌流画像と他の脳循環検査の比較に関する委員会(上原委員長)

また、別途広報委員会(百島)を組織し、メーリングリストの立ち上げをお願いすることとした。班員の先生方から委員会およびメーリングリストへの参加希望をとった上で、近日中に正式に発足することとした。

### 4. 関連研究プロジェクトとの連携について

佐々木より関連研究プロジェクトとの連携について提案があった。日本放射線科専門医会・医会ワーキンググループ(代表者: 佐々木真理)では CT/MR 灌流画像の実践ガイドライン策定に既に着手しており草稿が完成間近であることから、完成を待って興相委員会に引き継ぐこととした。日本磁気共鳴学会共同研究プロジェクト(代表者: 佐々木真理)では医療機器メーカーなど 11 社が参加する企業分科会が組織されているため、今後相互に連絡を密にとりながら産学協同で標準化を推進していくこととした。

### 5. その他

佐々木より本研究班のペットネームについて提案があった。ASIST-Japan (Acute Stroke Imaging Standardization Group) とすることで同意を得た。

本研究班で日本版 EPITHET となりうるような多施設臨床研究が企画できないかという提案があった(山田)。本件に関しては別途検討委員会を組織し、検討することとした。

最後に各班員より自己紹介と挨拶があった。今後の連絡は主に ML を通して行うことを確認した。

- 散会 -